

平成26年11月

一過性脳虚血発作

今回は一過性脳虚血発作についてお話します。恐らく耳にされたことのない病名だとは思いますが、最近、脳卒中の専門家の中で非常に重要視されてきているものですので、この機会にぜひとも知っておいてください。

ここでまず、脳こうそくについて簡単に復習しておきましょう。脳こうそくとは、脳血管の一部がつまったり、あるいは脳内の血のめぐりが部分的にきわめて悪くなるために脳に回復不能なキズがついてしまい、その結果マヒやしびれ、呂律（ろれつ）が回らなくなるなどの症状を長く残してしまうやっかいな病気です。一過性脳虚血発作とは、脳こうそくと同じように血行障害によって起こり、脳こうそくとまったく同じような症状がみられますが、長くは続かずに（多くの場合、一時間以内に）それがすっかり消えてしまうものをいいます。ですから、マヒや呂律不良が突然起こり、あわてて病院を受診してはみたものの、診察室に呼ばれた時にはすでに症状があとかたもなく消えているというケースがほとんどです。この発作は脳こうそくと同じく、脳内を流れる血液の循環が部分的に悪くなるのが原因ですが、血液の流れ具合が短時間のみ悪くなっただけで、すぐに回復したために症状が消えるのだと説明されています。

さてそれでは、症状が消えてメデタシメデタシですね、もう大丈夫ですよ、となるかというとは決してそうではなく、むしろ気を引きしめて検査や治療を行わなければなりません。なぜなら、一過性脳虚血発作はその後三か月以内に脳こうそくに移行するケースが、どんなに少なく見積もっても十人に六人はいるからです。以前は良性と考えられていた一過性脳虚血発作ですが、平成二十一年に改定された「脳卒中治療ガイドライン」（これは全ての医者が参考にする、脳卒中治療の参考書みたいなものです。）では、速やかに精密検査を行い、脳こうそくにならないようにすぐに治療を始めるようにと強く勧めています。

さて、平成二十年にロンドンで発表されたガイドラインには面白いことが書かれてありまして、「笑顔を作った時に顔が左右対称か」「両腕を共に上に挙げられるか」「ハッキリと聞き取れて、理解可能な言葉が口から出るか」を調べ、どれか一つでも異常があれば脳卒中を疑いなさいとあります。

当外来では一過性脳虚血発作を疑った場合、何はさておき直ちに脳血管の精密検査を勧めさせていただいています。脳こうそくは現在、わが国の寝たきり病の第一位です。徹底的にその予防に努めなくてはなりません。もし、ご自分やご家族、知り合いの方に一過性脳虚血発作を疑う症状がみられた場合、早期の外来受診をお勧めしたいと思います。（文・神経内科 則行 英樹）